広報ただみ診療所

朝日診療所
所長　若山　隆

「コロナ流行期のインフルエンザワクチンの勧め」

皆さんこんにちは！何度も何度も申し訳ないのですが、今回もまたコロナにまつわるお話です。この原稿を書いているころ、コロナウイルス感染クラスターが会津若松を中心に発生しています。忍び寄ってくる目に見えない相手から逃げ続けるのは困難であり、いつかやってくると覚悟して自分にできる対策をする事が必要だと思います。しかし、コロナウイルスだけに気を取られているわけにもいきません。秋がくれば、もうすぐ冬になり、インフルエンザウイルス感染症にも気をつけねばなりません。インフルエンザもコロナも、発熱、咳・鼻水、倦怠感など症状がほとんど同じであるため、みわけることが非常に難しいです。検査をすれば分かる場合もありますが、すべての風邪症状の方に検査をするのも難しいです。実はインフルエンザワクチンには発熱や咳といった風邪症状の出現（発病）を減らしてくれるという効果があることも分かっています。国内の研究によれば、65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については、インフルエンザワクチン接種により34～55％の発病を阻止する効果があったとされています（厚生労働省HPインフルエンザQ&Aより）。肺炎が重症化しやすい高齢者の方や肺や心臓にご病気を抱えている方はもちろん、生後6か月以上であればほぼすべての方にインフルエンザワクチンを受けることが推奨されています。

只見町では例年、インフルエンザワクチンの集団接種を行っておりましたが、今年度は大勢が集まるリスクを避けるため中止の予定です。個別接種の案内については、役場保健福祉課から詳しいお知らせが出ると思います。朝日診療所でも多くの町民の方に個別接種を実施できるよう準備しております。

3密を避け、手洗い・マスク着用に努め、インフルエンザワクチンを接種して冬に備えましょう！

地域おこし協力隊として vol.70

移住コーディネーター
生天目（なまため）　博（ひろし）

「ブナの想い」

谷から吹き上がる風が気持ちいい。自分は生まれてからずっとこの地で暮してきた。ここは良いところだ。人間は「価値ある人生」を求めて、他のところへ移り住むと言う。何をもって「価値ある人生」と考えるかは、それぞれ違うらしい。すべての能力を使わないと生きて行けない世界に心が満たされる人間もいれば、求めるものすべてが揃っていないと生きて行けないと言う人間もいる。自分は、人間で言うなら前者に近いかもしれない。

人間は、この地の価値を、ユネスコエコパークの認定基準にもなった豊かな自然と、その中で暮らす人間同士の強い絆だと言う。だが、その人間の数、20年後の福島県で、いまの約185万から143万程度に減ると聞く。ほぼ100年前の人口に戻るということだ。誰も経験したことのない世界だ。

山の生き物は、自らの強みを巧みに使い生きている。誰であろうと強みを手放すのは愚かなことだ。人口減が避けられないなら、それは事実として順応しつつ、人間は人間の強みを使って、この地の価値を守ればいい。ブナは芽生えた場所から動けないが、人間は自ら価値があると認めたところへ動く。 人間が減ろうと、人間が集まる場所になればいいと言うことだ。

だが人間の強みとはなんだ。山へ入った人間から漏れ聞いた、何やら聞きなれない言葉がある。たしかAIとか、ITとかIoTと言ったか、人間の生活やコミュニケーションを支援する技らしい。この強みを活かせば地域コミュニティーを保ち、豊かな自然も維持、保全できるのではないか。

風が枝葉を通り抜ける気持ちいい日だ....この地の価値を手放してはいけない....と想う。

引用
【20年後の福島県は、その人間の数がいまの約185万から143万程になるらしい。】の根拠は、福島県人口ビジョンから。